

韓国環境部プレスリリース 2020年2月5日付

京畿道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 165-166 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1298445&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョンゴン）百鶴面（ペツカンミョン）民間制限線中で発見された野生いのししの死体 2 個体から ASF ウイルスが検出されたと 2 月 5 日明らかにした。

○死体は全 2 月 4 日、営農者によって山で発見された。漣川郡（ヨンチョンゴン）は野生いのしし ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体を処理した。

□国立環境科学院は 2 月 5 日死体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで漣川郡（ヨンチョンゴン）では 47 件の野生いのしし ASF 陽性事例となり、全国的には 166 件になった。

□国立環境科学院生物安全研究チーム長は“今回の死体は全部民間制限線内 2 次フェンスの中で発見された”として、“この地域では感染した死体がさらに出てくる可能性があり、搜索を徹底している”と話した。

以上